

2015年5月10日  
公益社団法人 日本看護協会

【第5回「忘れられない看護エピソード」入賞作品発表】

今年で25周年



5月12日は  
看護の日

## 心温まる感動的な看護エピソード 応募 3,536 作品から最優秀賞などが決定！

公益社団法人 日本看護協会(所在地：東京都渋谷区/会長：坂本すが)は、本日、5月10日(日)に日本看護協会ビル JNA ホールで、第5回「忘れられない看護エピソード」表彰式を開催し、入賞作品の発表や最優秀賞受賞者の表彰を行いました。

「忘れられない看護エピソード」は「看護の日・看護週間」中央行事として、看護職、一般の方々が看護の現場で体験した心温まるエピソードを募集し、優秀作品を表彰するものです。第5回となる今回は、全国各地から過去4回を大幅に上回る3,536作品が集まり、厳正な審査を経て入賞作品を選定しました。

表彰式は、来賓や抽選で招待された観覧者ら約200人が見守る中で行われました。最優秀賞、内館牧子賞に加え、「看護の日」25周年を記念して設けられた特別賞の受賞者を表彰。特別賞の副賞として、人気作家の桜沢エリカさんによる受賞作の漫画化作品も披露されました。また、ホラン千秋さん(タレント)の「看護の日」PR大使就任式、大使として初仕事となる最優秀賞受賞作の朗読、さらに、トークショーも行うなど華やかな式典となりました。

なお、5月12日の「看護の日」当日には、PR大使のホラン千秋さんが東京医療保健大学(東京都品川区)を訪れ、看護学生とともに優秀作品の朗読やトークセッションなどのイベントを行います。取材のお申し込みや詳細情報については、下記事務局宛てご連絡くださいますようお願いいたします。

### ■ 最優秀賞

【看護職部門】	エンゼルのわが子へ	ひらやす かゆみ 平安 香由美さん	60歳	〈沖縄県〉
【一般部門】	ナイスのナース	かわぞえ よしみ 川添 芳身さん	85歳	〈東京都〉

### ■ 内館牧子賞

【看護職部門】	愛が、かかっている	こばやし みわ 小林 美和さん	44歳	〈愛知県〉
【一般部門】	わかる、わからない、より「わかりたい」	すがわら りか 菅原 里佳さん	43歳	〈北海道〉

### ■ 「看護の日」25周年特別賞

わすれられないたん生日	いりえ なつき 入江 夏希さん	8歳	〈新潟県〉
-------------	--------------------	----	-------



### ◆ 表彰式の模様

#### (写真前列左より)

すがわら りか  
・菅原 里佳さん  
ひらやす かゆみ  
・平安 香由美さん  
かわぞえ よしみ  
・川添 芳身さん  
こばやし みわ  
・小林 美和さん  
いりえ なつき  
・入江 夏希さん

#### (写真後列左より)

・内館 牧子さん  
・厚生労働省  
大臣官房審議官  
ふくしま やすまさ  
福島 靖正  
・ホラン千秋さん  
・桜沢 エリカさん  
・日本看護協会 会長  
坂本 すが

<報道関係のお問い合わせ先>

### 第5回「忘れられない看護エピソード」事務局

〒102-8025 東京都千代田区紀尾井町3-23 担当：小松、三樹(みつぎ)  
電話：03-3263-5900 F A X：03-3263-5623 E-mail：kango@prk.co.jp  
当日の連絡先(小松)：070-2196-5232

## ■入賞者一覧(敬称略、年齢は応募時)

部門	賞	作品名	受賞者		
看護職部門	最優秀賞	エンゼルのわが子へ	ひらやす 平安 香由美	60 歳	沖縄県
	内館牧子賞	愛が、かかっている	こばやし 小林 美和	44 歳	愛知県
	優秀賞	「一口」の満足のためにできること	うえの 上野 由利子	55 歳	北海道
		最後の約束	ささき 佐々木 典子	41 歳	群馬県
		小さな奇跡	とくなが 徳永 亜希子	40 歳	徳島県
	入選	てのひら 掌 に託されし願い	かわて 川手 弓枝	42 歳	長野県
		忘れられない笑顔	もりもと 森本 綾	39 歳	愛知県
		大きくなったら何になりたい？	やまざと 山里 敬一郎	37 歳	愛媛県
		ドングリに託された思い	よこやま 横山 里実	50 歳	兵庫県
	一般部門	最優秀賞	ナイスのナース	かわぞえ 川添 芳身	85 歳
内館牧子賞		わかる、わからない、より「わかりたい」	すがわら 菅原 里佳	43 歳	北海道
優秀賞		人の温かさに触れた時	ふくやま 福山 恵美子	31 歳	埼玉県
		心の中にいつまでも	かげやま 景山 早恵	43 歳	東京都
		心の医療を目指して	もりもと 森本 愛美	17 歳	広島県
入選		見えないやさしさ	とおよま 遠山 健	43 歳	東京都
		真夜中のほうじ茶	よねざわ 米澤 泰子	59 歳	福岡県
		救われた言い方	わたなべ 渡邊 ひろこ	39 歳	埼玉県
		残された紙おむつ	つちだ 土田 葉子	50 歳	山口県
		魔法にかけられて	おがわ 小川 亜衣子	35 歳	広島県
「看護の日」25 周年特別賞	わすれられないたん生日	いりえ 入江 夏希	8 歳	新潟県	

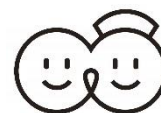
## ■「忘れられない看護エピソード」概要

- 【部門・応募資格】： ① 看護職部門：現在、国内で看護職に就いている方、または過去に看護職に就いていた方  
② 一般部門：日本国内在住の方
- 【募集内容】：「看護」を通して得られた忘れられない思い出やエピソードについて 800 字以内で応募。  
作品には必ずタイトル(題名)を付記。
- 【募集期間】：2014 年 11 月 17 日(月)～2015 年 2 月 20 日(金)
- 【表彰・副賞】：  
 ■ 最優秀賞…賞金 20 万円(各部門 1 作品)  
 ■ 「看護の日」25 周年特別賞…人気作家・桜沢エリカさんが作品を漫画化(1 作品)  
 ■ 内館牧子賞…賞金 10 万円(各部門 1 作品)  
 ■ 優秀賞…賞金 3 万円(各部門 3 作品)  
 ■ 入選…ナースキティオリジナルぬいぐるみ(各部門 5 作品)  
 ■ 応募者全員…第 5 回入賞作品収載の小冊子
- 【審査員】：特別審査員 内館牧子さん(脚本家)、ゲスト審査員 ホラン千秋さん(「看護の日」PR 大使)、厚生労働省・日本看護協会関係者などで審査
- 【主催】：厚生労働省、日本看護協会

### <看護の日について>

「看護の日」(5月12日)は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、中島みち氏(ノンフィクション作家)の発案・呼び掛けにより日野原重明氏(医師)、橋田壽賀子氏(脚本家)、柳田邦男氏(作家)など市民・有識者による「看護の日の制定を願う会」の運動をきっかけとして、1990年に制定され、今年で25周年を迎えます。以来、5月12日を「看護の日」、この日を含む日曜日から土曜日までを「看護週間」(今年は5月10日～16日)とし、毎年、厚生労働省と日本看護協会が中心となり、全国各地でイベントなどを行っています。

今年で 25 周年



看護の心をみんなの心に

5月12日は  
看護の日

## 【 看護職部門 最優秀賞 】

エンゼルのわが子へ

ひらやす か ゆ み  
 平安 香由美さん 60 歳 〈沖縄県〉

「かわいい、可愛い、お母さんにお産の経験をさせてくれてありがとう。〇〇ちゃんのことはずっと忘れないよ。また会えるからね」と母親と父親は交互に小さな赤ちゃんを抱っこしながらとめどなく流れる涙を拭うことができなかった。

十年間の不妊治療後、やっと妊娠しその夫婦は喜びの絶頂にいた。しかし、妊娠十週に入ったときエコーに映る胎児に異変を指摘された。胎児水腫(たいじすいしゅ)だった。生存確率がほとんどなく、多くは子宮内で死亡するため、妊娠途中でお腹の中の赤ちゃんを外に出す処置が施された。

母親は痛みと悲しみの苦痛の中、赤ちゃんは心臓の止まった状態で黒い皮膚の色で生まれてきた。首の周りが水ぶくれのように異常に膨れ上がり、全身フヨフヨして数力所の皮膚がめくれ水分がたらたら流れ出ていた。

主治医はその赤ちゃんの姿を見て「母親に赤ちゃんを会わせる前に、父親の思いを聞いてください」と気遣った。父親は児と対面した直後、何の迷いもなくきっぱりと言った。

「私たちの子です。母親にも会わせませす」

「会わずに別れることがもっと辛いことですからね」

この夫婦は赤ちゃんが生まれる前から決めていたのだろう。どんな姿で生まれてきてもぜひ抱っこしてあげたいと。

赤ちゃんの肌からにじみ出る水分をガーゼで巻いた綿に受け止めさせ、温めたバスタオルでくるみ父親に抱っこしてもらった。その後、母親との対面になった。その時の母親の第一声が冒頭の言葉であった。

助産師になって 37 年間、このような対面は初めてだった。これまでの経験では、父親は母親に赤ちゃんを会わせることを拒み、母親も会うことは辛いからと対面しないでの別れが日常であった。母親は私に「子宮筋腫の手術を受けているのでお産は帝王切開しかないと言われていました。この子のおかげで普通のお産を経験でき感謝しています」と言った。エンゼルになったわが子への愛があふれていた。

## 【 看護職部門 内館牧子賞 】

愛が、かかっている

こばやし み わ  
 小林 美和さん 44 歳 〈愛知県〉

薄いピンクの花柄パジャマがとてもお似合いになる晴子さん。少し首をかしげてベッドに佇(たたず)むそのお姿は、私たち看護師をゆっくりとした時間の流れへと誘うものでした。

西日が少し厳しい夕暮れ、カーテン越しに振りそぐオレンジ色の淡い光は、晴子さんを温かく包んでいました。

晴子さんのパジャマの袖口からは、真っ白でぼてぼてとしたふくよかな両手が伸びています。重ねた両手の先には、安心手袋と称したミトンがかぶせられていました。しかし、それさえも受け入れられているかのように、晴子さんは何もいわず穏やかに佇んでいました。

晴子さんは認知症。点滴を何度も自分で抜いてしまったり、大切な管を抜いてしまいそうなことが続いた晴子さんは、医師からの指示でご本人と家族の了承の上、前日からミトンをされていました。看護師が晴子さんの状況を見て外してよいことになっていました。

私は、そのミトンをそっと外しました。晴子さんは、無言でうなずくように頭を下げました。私のほうが、なんだかばつが悪い感じがしたのか、その場を取り繕うように晴子さんの手をさすりました。「ごめんなさいね……。嫌だったでしょう……」

晴子さんに、検査出棟の指示が出ました。慌ただしく動き回る私たちにも文句ひとつ言いません。むしろ優しい笑顔で私を見つめてくれていました。ベッドを検査室へと移動し始めました。エレベーター待ちをしながら私は、晴子さんの布団が腰までしか掛かっておらず、ぼてぼてとした両手がパジャマの袖口から出てしまっていて、寒そうに見えました。

「晴子さん、お布団掛かってなくてごめんなさい。手が冷たそうだわ。お布団掛けましょうか……」と、布団を掛けながら両手を布団の中へ入れようとすると、晴子さんは、「愛がかかっているから、大丈夫……。寒くないよ、ありがとう」。

私は、涙が止まりませんでした。エレベーターホールに愛がふりそそいだ瞬間でした。私の方こそ、晴子さん「ありがとう」。

## 【 一般部門 最優秀賞 】

## ナイスのナース

かわぞえ よし み  
川添 芳身さん 85 歳 〈東京都〉

「ナイスナイスの球子さん、おはようさん」

今日も、この一言で始まります。声の主は、看護師になって間もないTさんです。妻が病魔に苦しめられている時、この一声にどれほど励まされ勇気付けられたか分かりません。

認知症の妻は、最近めっきり体力も弱まり、入退院の繰り返しでした。今年は珍しく体調も良く安心してた矢先、秋口に風邪をこじらせ高熱が続くので、急きよ入院しました。

主治医に「重症の間質性肺炎(かんしつせいはいえん)」と診断され、すぐ集中治療のできる個室に移されました。病室には、2 種類の点滴スタンドと、心電図、脈拍、酸素濃度などの計器が所狭しと並べられ、緊迫した重苦しい空気が漂っています。

こんな時、天使のように訪れるのはTさんです。計器の数値を丹念に記録すると、「熱も下がり顔色も良くなったわ。ナイスナイスですよ、球子さん。頑張ってるね」と、病状を伝えながら力付けてくれます。皮膚が固くなった腕に点滴の針を刺す時には、「ごめんなさいね、痛くて。頑張ってくれてありがとう。やっぱりナイスナイスの球子さんだわ」と、優しく声を掛けてくれます。何気ない一声ですが、これで痛みも少し和らぐようです。

Tさんの気配りは、言葉だけではありません。声を掛けるときは、必ずベッドのそばにしゃがんで目線を同じくし、やせ細った手を撫でるようにして握っているのです。よく見ると、妻の口元がかすかに動き、涙ぐんでいます。あまりのうれしさに、「ナイスのナースさん、本当にありがとう」と、精いっぱいのお礼を伝えているようです。看護の神髄に触れ、Tさんにかのナイチンゲールを重ねていたのでしょうか。

はらはらと紅葉の散る 11 月の末、妻はTさんの手厚い看護に、いとも申し訳なさそうな顔をして息を引き取りました。おそらく、「こんなに優しくしていただいたのに、応えられずにご免なさいね、ナイスのナースさん」と、詫(わ)びつつ感謝していたのかもしれない。

## 【 一般部門 内館牧子賞 】

## わかる、わからない、より「わかりたい」

すがわら り か  
菅原 里佳さん 43 歳 〈北海道〉

おじいちゃんが、孫である私のことをわからないと言い始めてから、あっという間に誰のこともわからなくなり、そして一言も口を利かなくなるのに1年もかからなかった。病院へ行って調べたら、最近聞くような病名ではなく、当時の説明では、年齢的にそうなる方が多いと言われたと母が困り顔で話してくれた。

私は小学4年生だったので、おじいちゃんがおじいちゃんになんか信じられなくて、話し掛けても、肩をたたいても「まっしろ」な感じで「誰もいない」感じでそれを受け止めることはできなかった。

そして、おじいちゃんは精神科に入院した。

お見舞いに行くと、看護師さんがおじいちゃんの毎日の様子を教えてくれた。でも、いくら声を掛けても、2人であれだけ観察しておしゃべりした田んぼの稲の様子を伝えても、「まっしろ」な感じのまま。わからない、おじいちゃんが何を考えているのかわからない。正直、子どもの私には変わり果てたおじいちゃんが怖くなっていた……。

何度目かのお見舞いの時に、看護師さんが「今日はおじいちゃんの気持ちを聞くゲームしてみよう」と私を誘ってくれた。紙と鉛筆を用意してくれて、おじいちゃんに手渡してくれた。おじいちゃんはいしばらく動かなかったけど、やがて紙に漢字だけを書き連ねた。4年生の私には読めない漢字ばかり。

でもその中に「孫」「稲」という文字を見つけた。看護師さんに「おじいちゃん、まっしろじゃなくて本当はわたしのことわかってるのかもしれない！」と興奮して言うと、「わかる、わからない、よりわかりたい気持ちがあればきっと伝わると思うよ」と笑ってくれた。

それからのおじいちゃんは、「まっしろ」から「透き通った」感じに変わっていった。もう紙と鉛筆を渡しても、字を書くこともなくなった。それでも、看護師さんが「わかりたい気持ち」を教えてくれたから寂しくなかった。返事がなくても、おじいちゃんとのおしゃべりは楽しかった。

## 【「看護の日」25周年特別賞】

わすれられないたん生日

いりえ なつき  
入江 夏希さん 8歳 〈新潟県〉

わたしは、夏休みにりょう親がはたらくお店でふざけてあそんでいて、ガラスで足を切る大ケガをしました。その時は、おこられると思ってイタイのをグッとがまんしてなきませんでした。

びょういんについて、しんさつ室のベッドの上でふあんでいっぱいでした。そんなわたしに、ずっとやさしい声かけではげましてくれた1人のかんごしさんがいました。

先生が「これは、ぬわないとね」と言った一言で、わたしは今までがまんしていたなみだが、ワーと出て止まりませんでした。

かんごしさんが「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と声をかけてくれて少しおちついたら、お母さんが「この子今日たん生日なんですわ」と言いました。そしたら、かんごしさんが「それならケーキよういしくちやね。でも、ここにはないか」と言ってわらわせてくれました。

それから足をぬいおわって、ベッドの上でメソメソしているわたしの手に、3つのゼリーをギューとにぎらせてくれました。おどろくわたしに、かんごしさんは「しい。おたん生日おめでとう。こんなものしかなくてごめんね」と言ってくれました。かんごしさんのおやつをこっそりわたしにくれたのです。

わたしは、そのやさしさがうれしくて、うれしくて、足がイタイのもどこかへふっとんでいきました。

ゼリーはつめたかったけど、かんごしさんのりょう手はとてもあたたかかったです。これから何年もやってくるわたしのたん生日。わたしはきっと、毎年このイタくて、つめたくて、あたたかかった出来ごとをわすれないで思い出すんだらうなと思います。

「忘れられない看護エピソード」入賞作品展、「スマートフォンアプリ」、「冊子プレゼント」で感動をお届け！

第5回「忘れられない看護エピソード」を様々な場所でお楽しみいただけます。

### ■「忘れられない看護エピソード」入賞作品展

日本看護協会ビル3階「JNA プラザ」で、最優秀賞、内館牧子賞、25周年特別賞など入賞20作品を展示。ご来場の方には、入賞作品を収めた冊子をさし上げます。(入場無料)

- 期間 : 5月11日(月)～6月30日(火)
- 時間 : 10:30～17:00(13:00～14:00を除く) ※土・日曜は休館

### ■スマートフォンアプリ

「忘れられない看護エピソード」の歴代入賞作品を、手軽にいつでも楽しめるスマートフォンアプリ(iPhone、Android)をご利用いただけます。今回発表された第5回の受賞作品のほか、第1～4回の入賞作品もぜひ、お楽しみください。

- 収録作品 : 第1～5回の看護職部門／一般部門の最優秀賞、内館牧子賞、優秀賞、入選、25周年特別賞、計102作品
- 価格 : 無料
- ダウンロード : <http://www.nurse.or.jp/smt/episode-app/>



### ■第5回「忘れられない看護エピソード」集をプレゼント

今回の入賞作品を収載した冊子をご希望の方にプレゼントします。下記事項を明記の上、はがき、FAX、Eメールのいずれかでお申し込みください(数がなくなり次第終了)。

①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④職業 ⑤電話番号 ⑥希望部数(50部まで。50部以上応相談)  
〈申込み一覧〉

- ハガキ : 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2  
公益社団法人 日本看護協会 広報部
- FAX : 03-5778-8478
- mail : [koho@nurse.or.jp](mailto:koho@nurse.or.jp)

※お預かりした個人情報、冊子の発送と関連する情報提供のみに使用します。

